

○8番（南部 豊君） 改めまして、おはようございます。南部豊でございます。

今定例会では1項目、東員町の将来に向けたまちづくりが大きく左右されると思われる東員駅周辺の市街化形成についてを、質問させていただきます。

質問に入らせていただく前に、少しお時間をいただきたいと思います。

1つは、各地域、地区、保幼小中学校で、インフルエンザ感染による学級閉鎖の処置がとられております。今年の感染状況は近年になく、多くの方たちが感染されたように思います。私事ではございますが、私の家族全員がA型、もしくはB型にかかってしまいましたが、皆様におかれましても感染予防に努めていただきたいと思います。

もう1つは、先月25日に閉幕しましたお隣、韓国で行われておりました平昌オリンピック、私たちに多くの夢と感動を与えてくれました。冬期史上最多となるメダルの獲得、小平奈緒選手をはじめとする女子スピードスケートの皆さん、そして最も注目を浴び、言葉で言いあらわせないプレッシャーの中で演技され、フィギュアスケート男子で66年ぶりの五輪連覇を達成された羽生結弦選手、日本国民のみならず、世界中の皆さんが注目し、感動を受けられたのではないかと私は思います。参加された選手の皆さん、そしてその選手を支えられた関係者の皆様に心から感動をありがたいの言葉を送りたいと思います。

少し長くなりましたが、通告書に従いまして進めさせていただきます。

東員駅周辺の市街化形成について。

東員駅周辺における中心都市街化形成は、東員町のまちづくりの中でも、地域住民の皆様にとっても重要課題であります。皆様もご承知のように、当該地区は市街化調整区域で開発行為が困難な地域でもありました。しかし市街化編入による開発の可能性が見えてきた今、将来に向けた当町の新しいまちづくりの考え方についてお伺いしたいと思います。

1点目、平成29年9月、都市計画マスタープランが改定されました。基盤整備や市街地整備を通じて、都市機能の集積を図るコンパクトシティとしてのまちづくりを進めるとありますが、どのようなことでしょうか。

2点目、東員駅周辺は住民開発を活用し、住居系を中心とした市街地形成を図るとありますが、どのくらいの件数を想定した規模でしょうか。

3点目、東員駅前民間開発エリアとして18.2ヘクタール、東員第一中学校の移転を含めた生活に必要な商業系施設や医療・介護系施設の誘致についてのお考えをお聞きしたいと思います。

4点目、市街化編入予定面積は、区域図、案ではありますが、エリア37ヘクタールですが、耕作面積の減少や水利費の負担増が予想される、その対策をお聞きします。

5点目、継続農業者さんへの代替地の考え方についてもお伺いしたいと思います。

以上、お願いします。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） おはようございます。

東員駅周辺市街化形成についてのご質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

す。

この地区は鉄道の駅前であり、公共施設が集積しておりますことから、おのずと人の集まりやすい場所と考えております。この地域に、本町の顔にふさわしい、人が暮らしやすい小さな都市機能を集積したまちづくりができれば、本町の持つ可能性は大きく向上すると思っております。

このたび、この地域の主としたエリアを、民間開発手法を使うということによって、東員駅周辺から役場にかけて、市街化区域に編入できるという目処が立ってまいりました。

今回の市街地整備予定区域は、東員駅周辺から役場にかけての約37ヘクタールでございますが、これを3つのブロックにエリア分けをいたしまして、エリアごとに整備を進める予定でございます。中心部の約18.2ヘクタール、東員駅前民間開発エリアでは、人の日常生活に密着したコンパクトシティとして、住宅地や中心市街地にふさわしい都市機能を有したエリア形成を図ります。

この地区は、住宅整備とともに、本町経済活動や日常生活の拠点として、必要な商業ゾーンや医療ゾーンなどを整備することや、このエリアへの車の進入を制限した、歩いて暮らせるまちづくりを目指し、子どもや高齢者に優しいまちづくりを考えております。

さらに事業者との協議次第でございますが、地域で使うエネルギーを自給できるようなシステムがあれば、環境にも優しい都市空間ができるものと考えております。

また、建築後50年を経過した校舎があり、地域的にも偏在していることから、その整備が喫緊の課題となっております東員第一中学校を、この民間開発エリアへ移転し、整備することを考えております。新しい学校をどんな学校にしていくのかということにつきましては、今、教育委員会を中心に、三重大学の英知もおかりしながら、その位置も含めて、これから検討をしております。

いずれにいたしましても、今回、整備の中心となる民間開発エリアは、町の将来を見据えた、町の顔となるべき機能を備えたエリアにしていかなければなりませんので、事業パートナーである積水ハウス株式会社と慎重に協議してまいります。

東員駅北エリアの約10.6ヘクタールでは、従前までの農家等分家住宅用地としての活用に加え、道路拡幅などの基盤整備を行いながら、住宅用地としての誘導を図る区域といたします。

役場周辺エリア約8.2ヘクタールは公共施設が集積した区域であり、今後も公共施設用地としての活用を図ってまいります。

次に、今回の開発に伴う住宅件数の想定についてですが、今回の計画での人口フレームは840人となっておりますが、これはあくまでも机上の数値でありまして、実際の住宅地開発につきましては、これから事業者であるセキスイハウスが策定する計画に委ねられますので、その策定後には皆様にお示しできるものと考えております。

残余につきましては、担当部長から答弁を申し上げます。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 続きまして私からは4点目の「市街化編入予定地域内の耕作面積の減少、水利費の負担増に対する対策について」と、5点目の「継続農業者さんへの代替地の考え方について」、お答えを申し上げます。

現在、減少する面積によって水利費等に影響がでることにつきましては、神田土地改良区にご協力いただき、試算をしているところでございます。

議員ご心配の農業者の方にかかる負担につきましては、神田土地改良区と引き続き協議を重ね、対応してまいりたいと考えてございます。

次に5点目の「継続農業者さんへの代替地の考え方について」でございますが、代替地を希望される農業者の方がいらっしゃいます場合は、行政といたしましても、候補地の提案等に積極的にかかわってまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 答弁をいただきました。

私は今回、この東員駅周辺の市街化形成についての質問をテーマにさせていただきましたのは、当該地区の山田地区から北大社地区の皆さんのみならず、ネオポリス地区の皆さん、そして東員町民の皆さんに広くこのことを知っていただき、今後のスケジュールの中で説明会や公聴会で関心を持っていただくことで、よりよいまちづくりを実効性のあるものとして実現してほしいと私は思っております。

そして東員駅周辺の開発については、私、議員にさせていただいてから、私のテーマでありました。町長には何度も提案してまいりましたコンパクトシティ構想は、町長のマニフェストにも上げられています。

今回いただいた資料によりますと、これは案ですが、北エリア、民間開発エリア、北エリアが10.6ヘクタール、民間開発エリアが18.2ヘクタール、東員役場周辺エリア、これが8.2ヘクタール、合計37ヘクタールの市街化編入エリアになっております。私、これほど大きな事業になってくるとは思いませんでしたので、これが実行可能であれば、本当に素晴らしいことだと思っております。

そこでお伺いします。この資料を見させていただきますと、少し理想論的構想と言いますか、これが先行しているように、そういう心配も出てまいりますが、実行可能とするためにどのような政策をお考えなのか、お伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） まずは南部議員からエールをいただきまして、ありがとうございます。これにつきましては、議員と同じように、私も長年取り組んできたことでございますので、何としましてでも実行して完成させていきたいという思いでおりますので、皆様には、これからしっかりとやっていきますので、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今、ご答弁申し上げましたのは、あくまでも、ご指摘いただいたように理想的なまちづくりということで、希望的なことも入っております。おりますが、これにつきましては特に民間開発エリアにつきまして、事業者と真剣に協議をさせていただきながら、基本的には先ほど申し上げましたように、事業者が描く絵というものが基本のベースになります。

それに我々、あるいは町民の皆さんからいただいた意見を、その中へどれだけ入れていただけるか、少なくとも採算を合わせられないと、事業者としてもお困りになるというふうなことは、我々も十分承知しておりますので、その中で最大限、我々、あるいは町民の皆さんの意見を反映させていくかということにつきましては、今後、事業者ときっちり向き合って、その構想を我々が考えるようなものに近づけていただけるような、そんな協議を真剣にしていくということが大事なんだろうなというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 答弁をいただきました。

少しちょっと聞きにくいことかもしれませんが、今回、民間開発エリアの民間企業さんを募集されたわけですが、公平・公正・公開性という観点から、今回の募集方法に問題はなかったのか、そして今回積水ハウスさんを選定された一番の理由は何だったのか、この2点についてお伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今回の選定につきまして、我々、募集は行っておりません。あくまでも事業者さんからのご提案ということで、現実問題、マスタープラン改定になりましてから、3社のお問い合わせをいただきました。その中で、そのうちの2社にご提案をいただいたわけです。

その2社の中から決めさせていただいたんですが、何せご承知のように時間がなかなかないところで、事業者の皆さんにも満足のいくご提案をいただけたかと言うと、そうではないかもわかりません。それは本当に申しわけないなという思いはあるんですが、何せ時間がないことです。その2社のうちから決めさせていただいたということでございます。

我々選考をさせていただく中で、提案自体に、それぞれ日本を代表する大きな会社でございますので、そんな大きな差異はなかったかなという思いはあるんですが、提案自体にね、あるんですが、一番、選考委員の皆さんのご意見で決め手となったという大きなものは姿勢かな、これに取り組む姿勢というものが若干違ってたのかなということ、今のところへ落ちついたということだと考えております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 募集はされてなかったということですが、3社の方からの申し出があったということで、適正であり、問題はないということかと思いますが、ここで2社の企業さんから提案された提案書を比較検討され、十分吟味され、今の姿勢に対して優位性があったということで、積水ハウスさんに決定されたということだろうと思いますが、その内容、中身について、私もちょっと知りたいと思っております、これはずっと。これを公開していた

だくことは可能でしょうか。また、今、無理ということであれば、いつになったらそれを我々に見せていただけるのかということ、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 1社の方は、終わってから資料を引き上げられましたので、今、我々の手元には残っておりません。それが1つですね。そしてもう1社につきましても、本当に漠とした絵が書いてあっただけということなんです。

理屈につきましてはいろいろありましたので、例えば我々の目を引いたのは、町民の意見を聞く機会を設けますよというようなことが書いてありました。そんなことは我々の目を引いたのかなということがありましたけども、これから少し検討させていただいて、公開できる部分につきましては、これから固まっていきますので、最初のものでそのままになるということではないんですが、公開できるものもあるのかなというふうに思っていますので、そういうものについては一遍検討をして、公開できるものについては前向きに考えていきたいというふうに思っています。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） もうぜひ、やはり公開できるものは公開をしていただくということが基本になろうかと思っておりますので、ぜひお考えいただきたいというふうに思います。

この計画を進めるには、当該自治会長さんや関係者を含めた開発検討委員会みたいなものが必要になってくると思いますが、そのお考えはどうでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） まだそこまでのところまでいってないのが現状です。というのは、この間、山田と北大社の説明会をさせていただきました。実は北エリアに一部、鳥取地区、それから大木地区がかかっております。4月になったら、新年度になってからの話なんですが、できるだけ早いうちに鳥取地区と大木地区についても説明会をさせていただきたいというふうに思っております、まずそういうところから入っていきます。

今、並行して事業者の方で、民間開発エリアの中の案を検討していただいているというふうに思っておりますので、その辺のことが出てきたら、もうちょっと前向きに検討をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 先ほども答弁の中で、町長、やはり時間、今回これは来秋ということになろうかと思っております。後ほどまた述べさせていただきますが、1年半ぐらいのスケジュールで、これを進めていかななくてはならない事案だと思っておりますので、我々がちょっと危惧するのは、やはり時間がないからこうやったとかいうこと、そういう形にはしてほしくないという思いがあります。

続けさせていただきます。商業系施設の中で、東員町には宿泊施設がありません。ぜひこの機会に、採算ベースに乗る乗らない等のお話もありますが、民間企業さんのアイデアをいただきながら、ぜひこれを実現していただきたいと私は思いますが、いかがでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 宿泊施設については、ぜひ私も欲しいなというふうに思っております。このあたりの全体的な宿泊の傾向を見ますと、東員町の駅前にあっても経営は成り立つのではないかなと、ちょっと希望的観測ですけど、そういうことを考えてます。というのは大きな企業がこのあたり、周りにいなべ市も含めて結構あります。今あるホテルが結構、稼働率が高いというふうなことを置いておまして、なかなか宿泊施設を見つけるのに困る日もあるというふうなこともありますので、この東員駅、ここにあれば非常に近い企業もありますので、便利ではないかなと勝手に思ってるんです。ぜひその宿泊施設というの、ここに欲しいなというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 稼働率が高いというお話をいただきましたので、ぜひそういった完全なるホテルというような形式のものでなくてもいいんですよ。簡易的なものでもいいので、ぜひお考えいただきたいというふうに思っています。

あと、医療系のお話が3件ほどあるとお聞きしていますが、現実的なお話でしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 医療につきましては、ちょっと驚いたんですが、どこから情報を得られたのか、ちょっと僕もわかりませんが、直接電話をいただきました。そして、はっきりとここへ進出したいという旨のお話をいただきました。ただ、その方が言われるのは、まず土地を取得して、それから申請して、大体1年半ぐらいかかるらしいんですよ。なんで、いつごろ土地が取得できるんやというふうなお話もいただきまして、そのところは、まだ我々もはっきりわかってるわけではないので、また早々に計画をして、ご連絡申し上げますという話をさせていただきます。

ということで、これは民間開発エリアになると思いますので、その開発事業者の方には何とかそういうエリアを、要するに医療モールエリアみたいな形のものを作っていただきたいというふうなお願いもしております、その中へ入ってくるのかなというふうに思ってます。今言われましたように、今のところ3件聞いております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 以前、私は産婦人科の誘致を提案させていただきましたが、過去にも町内の若いお母さん方から、何とかしてほしいという声をいただいております。若い人たちの転入・定住を考えると、最もよい有効策だと私は思ってますので、3件のみならず、そういったものに少しお力をいただいて進めていただきたいというふうに私は思っています。これは答弁は結構です。

続きまして、平成32年度に三重県のマスタープランが改定されると思いますが、東員町の政策と近隣市町との関連性はどうなっているのか。保留人口フレームについても、少しご説明いただきたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 保留人口フレームの質問ということでよろしいですね。これは平成32年を目標年次としまして、平成23年に改定されました三重県の都市計画マスタープランというのがございます。この中におきまして桑名市、木曾岬町、いなべ市の一部と本町の2市2町、これで構成します桑名都市計画区域というのがございます。ここで平成17年の国勢調査に基づいて改定が行われております。

当時は人口動態がまだまだ増加傾向であった、右肩上がりの人口がどんどん増えていきますよという考え方であったため、市街化区域につきましては拡大することができる、そのための保留人口フレームというのがございます、それが2, 129人ということでございました。2市2町の構成市町の中で、これが認められてございます。この人口フレームにつきましては、この2, 129人をどういった形で活用していくのかということについては、2市2町の中で協議を行っていくということでございます。

しかしながら先ほどから議員が、そんなに急ぐなとおっしゃいますけども、実は急いでいるわけが人口フレームに関係がございまして、平成32年度に県の都市計画マスタープラン、これが改正されて見直しをされます、改定されます。この中にも当然桑名都市計画区域も入ってございますので、これにつきましては今現在でも人口減の状況であり、保留人口フレームが生じなくなる可能性がある。いわゆる平成32年度以降は、市街化区域への編入への可能性が限りなくゼロに近い、まずゼロであろうと言われておりますので、そういった情報が入っておりますので、それまでには何としてもやっていかないといかんということで、それで急いでいるということを私どもはよく言うんですけども。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） もう一度確認させてください。当然、三重県のマスタープラン改定というのは10年ごとに、これも改定が実施されると思いますが、次の改定の平成42年度になろうかと思えます。先のことはちょっとわかりませんよ。人口減少の傾向であるため、今、部長が言われた、今後、平成32年度以降の市街化編入は難しいという結論でしょうか。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お見込みどおりでございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） この以降は、県が許可しない方向でいくということになりましようかね。

例えば今、各地域で行われている、東員町でミニ開発が盛んに行われていますよね。このミニ開発についてはどのようにお考えなのか、お伺いします。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 先ほどから私どもがご答弁申し上げておりますのは、市街化への編入区域ということでございます。要するに市街化区域以外のところから市街化区域に編入するという形をとる場合は、こういったことになってきますよということでございますの

で、ミニ開発とは少し別物になってきますので、ご理解いただきますようによろしく願います。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） ありがとうございます。

中心地市街地形成の必要性の中で、この間の2月17日の中日新聞の北勢版にも、町長がおっしゃってみえたことがありますよね。ネオポリス団地内高齢者の受け皿として、サービス付き高齢者住宅などを確保して、団地内での人の循環を促しますとありますが、どのようなことでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今、特に笹尾・城山地区では高齢化が進んでおります。その中で例えば高齢者がお二人になった。子どもが出て行って帰ってこない。お二人になったとか、そのうちお一人が亡くなられて、お一人住まいになったとか、そういうことも散見されるようになってきております。

そんな中で、じゃあ高齢者の方が大きな敷地、大きな家を管理しながらそこに住み続けるということが難しいと思われる方も、その中で出てくるのではないかなと。

そのときに今、駅前を考えておりますのは、そこに集合住宅、サ高住とか、そういうものができれば、そちらへもし来られた方は、一歩家から出れば、身の回りの物は全てそろそろような環境にある、そしてまた駅もあり、役場もあるというようなことの環境であれば、それも1つの選択肢になってくるのではないかなというふうに考えております。

そういう方が出てこられた場合は、今住んでみえる家、敷地を売られてこちらへ来られた場合は、その空いたところへ若い人が入るようなことになれば、人の循環ができてくるのではないかなと。それも我々としては考えていかなければならないのではないかなというふうに思っております。可能性としては、そういう可能性もあるのではないかなというふうに見越して、こういう施策というものも、手を打っていかなければいけないんだろうというふうに思っています。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 高齢者に優しいまち、安心・安全なまちを、東員町は表明していますので、ぜひ力を入れて進めていただきたいと思います。

この当該地区に東員第一中学校の移転も視野に入れておみえということですが、一中の今現在の規模、面積ですね、どのぐらいあるのか。そしてまた、民間開発エリア、18.2ヘクタールのところに持ってこようとする、どのぐらいの規模のものを持ってこようとしているのか、この2点、お伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 小川増久教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） お答えさせていただきます。

現在の東員第一中学校については、土地の面積が約3万平米弱ございます。もし今度、第一中学校が移転をするとなると、当然その建設の建物の大きさとか階数にもよってくるのですが、



今の第一中学校の建物とか土地の面積が基本になってくると思います。

それと委員会の設置のことについてのお尋ねでございますが、当然その第一中学校の移転に伴う建設委員会の設置につきましては、駅前の市街化形成事業の進捗に合わせて、設置について検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 今までは何か憶測的な話が先行していたように思いますが、平成27年の検討委員会で、少し方向性は決まっていたと思うんですが、これは今、民間開発エリアに誘致をするという決定事項ととらえてよろしいのでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 以前の学校適正規模・適正配置委員会ですね、そこで、まだこの計画が確定してない時に、今、偏在しているので、できれば真ん中へ持ってきたいねと、持ってくるのがよりいいという答申をいただきました。それが2年ぐらい前だったと思うんですが、いただきました。

この開発計画が現実のものになってきた以上、その答申を尊重させていただいて、我々としては、この開発を当然成功させたいという思いがありますが、成功すれば、ここへ移転をしてくるというふうに考えております。

これはあくまでも、この計画が確実にできるということが前提でございますので、ぜひ皆様のご協力をいただいて、この計画を成功させて、ここへ東員第一中学校を移転整備させたいという思いでございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） はい、わかりました。

あと、こういう事業についての基盤整備についてですね、事業者との費用分担がどうなるのかという問題も出てまいりますし、こういった一中の移転にかかわる予算経費として、積水ハウスさんが実施するところと行政がやらなければならないところがあるかと思えます。どこが、どこをどうするのか、現段階、わかっているものがあれば教えていただきたいと思えます。まだこの段階でないということであれば、私たち議会や町民の皆さんに、いつごろこういったものに対して明示されるのか、お聞かせ願いたいと思えます。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 当然、学校につきましては町が建設をしていくと、町がやるべきことだというふうに思っております。また、他にも下水道は町、それから水道は事業者というふうに思っております。

あと、基本的には民間開発エリアにつきましては民間開発事業者が、下水道とかそういうものは除いて、全てやらんならん、やっていただくというふうに思っておりますが、ただ、ご質問にもありましたように、土地改良の施設とか、いろんなものがありますね、水利費も含めて、そういうものにつきましては国への返還金とか、そういうものも出てきます。それは当然町で処

理せんならんものだというふうに考えておりまして、それ以外の造成を含めて、開発については事業者が行っていただくというすみ分けかなというふうに思っております。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 先ほど来、いろいろ答弁をいただきましたけども、民間開発でされるものに関しては、やはり今、町長おっしゃられたように民間にお任せして、極力行政がかかわるところで、お考えいただけるところの話し合いの中で、少しでもお金のかからないようなことを、アイデアを出していただきながらやっていただきたいというふうに私は思ってます。

それと、さっき小川増久事務局長が言われたように、一中の規模、現段階は3万平米ぐらいあるというふうにおっしゃられました。私、今回、学校の移転について、まだまだ今から検討の余地があるところですが、少し提案させていただきたいのは、やはり学校の使用施設にしましては、町の公共施設の共同使用ができればいいかなと思っておりますし、中学校でまたそういう施設を作れば、また無駄な施設を作らなければいけない。それと公共施設の維持管理経費も、また見ていかななくてはいけないということで、共同使用ということをぜひお考えいただきたい。そうしますと公共施設の利用率の向上にも繋がるのではないかなと思っておりますので、体育館だとか武道館だとか陸上競技場だとか、できればサッカー場、野球場ぐらいまで、そのようなことで共同使用ができればいいかなと思ってます。

これはいろいろな問題や課題が出てくるかもしれませんが、必ずしもクリアできない問題じゃないと思っておりますので、可能であれば、できれば検討委員会のところで、また、これが可能であるという想定のもとでやられるのであれば、ぜひそういった施設に近いところで建設をいたたくというのも一考だと思いますので、そういうことを考えて、また進めていただきたいというふうに私は思ってます。どうですか、部長。

○議長（島田 正彦君） 小川増久教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（小川 増久君） お答え申し上げます。

先ほどご提案いただいたことは、私どもも公共施設と随分近い距離にあるということで、当然学校の先生方、あるいは学識経験者の方などの意見も参考にしながら検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 一中の移転につきましては、明日また同僚議員が質問されると思いますので、これぐらいにして、次に進めさせていただきます。

わかる範囲で結構です。東員町内の全体の農地面積、水田、畑地面積、この2点でいいと思います。それと市街化編入地内の水田と畑地面積は、どのような数字になってますか、お伺いしたいと思います。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 全体の水田面積と畑地面積と、今度編入される場所の水田面積と畑地面積でよろしいですか。全体水田面積が604.9ヘクタール、今回、市街化編

入予定地区内には水田面積は16.7ヘクタール、畑地につきましては町全体で72.5ヘクタール、市街化編入予定区域内では6.9ヘクタール、以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） それと同時に聞けばよかったです、この当該地区にかかわる農家さんの数、これもお願いします。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 編入区域内の農家さんの数でよろしいですね。予定区域内の農家さんの数が、農家人口が91名、農家件数が42件ということでございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） この地域は、パイプラインの給水がほとんどだと思います。地域の地権者さんは、今後、事業協力のために土地を手離すことになると、当然、神田土地改良区さんからは退会されてしまいますよね。そうしますと残された対象外区域、上流部や下流部の者には、先ほど言われました鳥取地区だとか大木地区に、少し地権者さんがあるということです、この地権者さんに、そういった水利費等の費用負担というのが増えてくると思いますが、今後、神田土地改良区さんを含めた対応になろうかと思いますが、私はその方たちには何かできる限りの、残された方たちに支援をしていただきたい。期間限定であっても、何らかの形で、そういったようなことを思っておりますが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 先ほどもご答弁をさせていただきましたけども、水利費に影響が出るということ、これについては今現在、試算中でございまして、また神田土地改良区さんとも今後協議を重ねてまいります。

加えて東員町の市街化編入につきましては、三重県の担当部門、この方々にも入っていただいて検討会を今ずっとやっておりますので、その中ででも、いろいろなこととお話をする中で、例えばそれについてのご支援できる補助とか、そういうものがあれば、当然それを私どもで積極的にかかわってまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） はい、ありがとうございました。

あと次の質問の中で、農用地の替え地について、継続農業者さんたちがされる場合でも、先ほど答弁もいただいておりますが、私は簡単にはいかない問題だと思っておりますので、市街化編入が見えてきますと、当然、代替地として価値差、価格差なんかも出てきますよね。今まで調整区域から調整区域というような場合であれば、比較的話はスムーズにいくとは思っておりますが、市街化編入が見えてきますと、当然その点について非常に問題も出てきますので、その点についてはどのようにお考えなのか、ちょっとお聞かせ願います。

○議長（島田 正彦君） 近藤行弘建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） 価格差の話になってきますね。その点になってくると、例

えば税の話も絡んできますので、私をご答弁していいかどうかわかりませんが、当然その辺も踏まえて、代替地というのは、例えば田んぼと田んぼだけでも大変なことになってきますので、しっかり私どもの中へ入って、皆様のご要望等々をお聞きしながら頑張りたいと思います。

以上でございます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） はい、ありがとうございます。まだまだたくさんお伺いしたいことがあります、最後の質問にしたいと思います。

地権者の皆さんが関心を持っておられることは何だと思われませんか。先日、ある地権者さんが言われた言葉、お金のこともあるけど、本当これ、東員町のためになるのかよくわからないとおっしゃって見えた地権者さんもおみえになります。そんな心配をしておみえでした。

今、地権者さんの中では坪いくらぐらいだろうな、譲渡税ってどのぐらいかかるんやろうな、固定資産税はどうなんやという金銭にかかわる問題も、これ当然出てまいりますね。このことについて、全てお答えをいただけるとは思いませんので、今わかる段階で、このことについてはこうしますよというものがあれば、もしわかれば教えていただきたい。現時点では答えられないということがあれば、それで結構です。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 価格の話でしょうか。価格については、今、事業者の方で全体の計画を作っていただいているというふうに思っています。全体の計画ができた時に、いくらぐらいかかって、いくらぐらい回収できるかという、そういうのが多分、今、急いでやっただいているというふうに思っておりますので、我々が今いくらで買える、あるいはいくらで買わなければならないかというような価格の話については、ちょっと我々が今、手持ちの中では出てこないというのが現状でございますので、それはご理解賜りたいというふうに思います。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 今のお答えが返ってくるかなというふうに思ってましたが、やはり私は提案書の中で、大体大枠の中で、このぐらいの費用はかかるんじゃないかというのは、積水ハウスさんの方から試算をされた上で、そういう提案がされたのではないかなと思ってたんで、それをちょっと今、お聞かせ願いたかったんですが、今の町長の答弁で私は納得しました。理解できました。

今回、私は中心地市街化形成事業、町長はコンパクトシティ構想にも繋がるというようなことをおっしゃっておみえでしたが、公共性を考えた上で、開発が町民の皆さんにとって、社会的効果は何をもたらすのか、はっきり明確にして、共有できるようにしていかなければならないと思っておりますし、今回の事業は、将来のまちづくりに向けて、来年平成31年度秋ということでスケジュール、あと1年半でございます。スマートな合意形成に結び付けるためにも、余裕を持って効率的に空白時間を極力なくしていただきたい。

先ほど時間がないという言葉、町長おっしゃられました、今後このスケジュールの中で、

やっっていかなければならないということがわかってますので、ぜひ今後、新しく担当される皆さんには鋭意努力いただきまして、もう一度言います、時間がないとか、日にちがないからということ、そういう言葉が出ないことを私は期待しております。

町長に一言いただくといいんですが、時間内で少しちょっと、町長、次回50年に向けた大計ともおっしゃっておみえになりましたので、最後をお願いします。

○議長（島田 正彦君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） これにつきましては当然町民の利益を考えた、そんなまちづくりをしてまいりたいというふうに思っておりますし、一中もここへ来ることですし、にぎわいのあるまちづくり、そして経済、それから東員町の町民の皆さんの暮らしの中心となるべく、そんな地域にしていきたいというふうに思っております。ですからそのためには町民の皆様の使い勝手のいい、そんな空間ができるように、我々も期待しておりますし、それにつきましては事業者と真剣に対峙をしていきたいというふうに思い、決意表明とさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。

○議長（島田 正彦君） 南部 豊議員。

○8番（南部 豊君） 最後に町長から熱い決意もいただきました。これはもう私も期待しておりますので、ぜひ進めていただきたいというふうに思ってます。

これで私の今定例会における質問を終わらせていただきます。